

はじめに



船橋市では、2017年（平成29年）3月に生物多様性ふなばし戦略を策定し、2050年度（令和32年度）の目指す将来像を「台地から海へ 水・緑・生命(いのち)と共に暮らす都市(まち)」とし、生物多様性の保全と持続可能な利用をめざし、施策を推進してまいりました。

近年、私たちは地球温暖化や生物多様性の危機、海洋プラスチック問題など地球規模の環境問題に直面しています。

国際的にはSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて取り組みが進められ、国の環境施策においては、地域循環共生圏の創造に向けた環境・経済・社会の統合的向上を目指すとされています。

各自治体にとっても環境問題は重要課題の一つであり、自治体が行う環境問題への取り組みは地球全体を見据えたものにしなければならない時を迎えています。

私たちの生活に、食料や水、木材や繊維といった資源、快適な環境などの多様な恵みをもたらす生物多様性は、都市化による生き物の生息場所の減少や地球温暖化による様々な影響などにより失われてきており、その回復のためには、自然環境保全の取組を着実に進めていくとともに今までの社会・経済活動についても見直しが必要です。

このような背景を受け、本戦略を改定することとし、これまで推進してきた各施策の現状と課題の抽出を行い、短期的な目標年度である2026年度（令和8年度）を見据え、本戦略を推進するための施策を見直しました。また、長期目標年である2050年度（令和32年度）までにおける今後5年間の位置づけを考慮し、船橋市が市民や事業者の皆様と重点的に取り組んでいきたいことをリーディングプロジェクトとして設定しています。

私たちの生活に恵みをもたらす生物多様性を未来の世代に引き継いでいくためには、市民・事業者・市民団体・行政等が、相互に連携しながら、自然との共生に向けた、より一層の取り組みが重要となりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本戦略の改定にあたり、貴重なご意見・ご提言をいただきました「船橋市環境審議会」の委員の皆様をはじめ、アンケート調査やパブリック・コメント等にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

令和4（2022）年3月

船橋市長 松戸 徹